

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第7期介護保険事業計画に記載の内容				R1年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	<p>【現状】 要介護認定率(H30.3月末現在)21%で、全国平均(18%)、青森県平均(18%)共に上回っている。また、認定者の85%を75歳以上が占めており、後期高齢者が圧倒的に多くなっている。</p> <p>【課題】 健康や介護予防への意欲に乏しく、特に冬場は閉じこもりぎみになる高齢者もあり、結果、後期高齢者になってから要介護状態になると推測されるが、自らすすんで体操や運動を継続して行う場が無いいため、集いの場づくりをすること。</p>	<p>住民自ら集う場を作り、積極的に活動できるよう整えるため、まずは現状の行政主導で開設している、サロン内容について利用者から意見を募り、利用者自身で考えてもらうようにし、行政主導から利用者主導にシフトチェンジすることで、住民主体のサロン開設をスムーズにできるよう整える。</p> <p>その後、既存のサロン内で学んだ利用者を軸とした、住民主体の地域サロンを開設する。</p>	<p>・平成29年度 全実施回数 46回 うち行政主導 46回 うち住民主導 0回</p> <p>・平成30年度 全実施回数 40回 うち行政主導 10回 うち住民主導 30回</p> <p>・平成31年度 全実施回数 45回 うち行政主導 5回 うち住民主導 40回</p> <p>・平成32年度 全実施回数 45回 うち行政主導 0回 うち住民主導 45回</p>	<p>・既存サロン開設日に、サロンでやりたい事、挑戦してみたい事を利用者に聞きとりし、発案させた。(H30年度からの継続的取組) → 1回実施。</p> <p>・発案内容を精査し、サポートが可能なものについて厳選して実施した。→ 21回実施。 H30年度から、利用者目線のサロンとしたことで効果が出ており、リピーターが増加した。 延べ人数前年比 → 196名増</p> <p>・住民主体の地域サロン開設の必要性について、地区へ出向いて、数年間継続してプレゼンしてきた効果が出て、地域サロン設置箇所数が増加した。 H30年度まで0カ所 → R1年度2カ所</p>	○	<p>【課題】 ・住民主体の地域サロンの必要性や、行政でサポートしていく旨、継続して発信しているが、行政主導での実施を要望する地区が多い。</p> <p>【対応策】 ・地域サロンの立ち上げについては、リーダーは必須ではない事や行政がしっかりとサポートしていく事、利用者同士で役割分担をすれば、特定の人に負担がかからないなど、丁寧に説明することが必要。 ・今年度立ち上がった地域サロンを広く紹介し、サポートがあれば住民主体での設置が可能であることを広報する。</p>
②給付適正化	<p>高齢化の進展に伴い、介護給付等に要する費用の増大が見込まれる。</p> <p>介護給付等に要する費用の適正化を図るとともに、利用者本位の質の高い介護サービスが提供されるようにする必要がある。</p>	ケアプランの点検	<p>(H30) (H31) (H32)</p> <p>ケアプラン点検数 40 50 60</p>	<p>青森県のアドバイザー派遣事業を活用したケアプラン点検数:5</p> <p>福祉用具購入や住宅改修の審査時におけるケアプラン点検数:10</p> <p>介護サービス事業所に対する実地指導におけるケアプラン点検数:2</p> <p>ケアプラン点検数 合計 17</p>	△	<p>村独自でケアプラン点検を行えるよう、担当職員の研修等を行う。また、実施方法を検討し、より多くのケアプラン点検の実施を目指す。</p>